

S.I.（英語英文学科・3 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

元々世界史や英語など異文化に触れる事が好きで、高校生の頃はシンガポールに 1 週間とイギリスに 2 週間の短期の研修に参加させてもらっていました。そのなかで英語を学んで世界のいろいろな文化をより立体的に学びたいと感じるようになり、大学生の間にもう少し長めの留学に挑戦したい、また、海外の大学でなにか専門的なことを学びたいと考えるようになりました。しかし、3 年次生になるまでの大学生活では海外の大学へ行って学びたいと思えるようなことが見つからず、大学生での留学は諦めてもいいかなと思っていたところ、国際課の English Speaking & Writing Support でお話をした先生にとにかく行ってみないと思いつからないものもあると言われ、語学留学への挑戦を決めました。決めたのが締め切りの 1 週間ほど前だったので、慌てて申し込みの準備をしたことを覚えています。

② 留学決定から出発までの準備期間

3 回の事前授業を通して現地への理解を深めました。また、友人が同じプログラムでアメリカに渡っていたので、準備や現地の治安・学校・ホストファミリーについてなど、いろいろなことを教わっていました。語学勉強は留学前の TOEIC で 800 点獲得を目標に単語と文法をメインに行い、また English Speaking & Writing Support を利用して少しでも英語を使って会話する時間を確保するようにしていました。ビザの申請は一見難しそうに感じましたが、国際課から配布された資料や教えていただいた動画を見ながら落ち着いて行ったら、案外スムーズに終わりました。時間に余裕を持って動き出すことと、領事館での面接のときは留学が終わったらちゃんと帰って来るつもりがあることをアピールすれば問題ないと思います。

③ 現地到着後

空港にホストマザーが迎えに来てくれていたので、車で家へ向かいました。家までは 30 分ほどで、私はとても緊張してしまっていたのですがホストマザーがポートランドや家周辺の大まかな地理について分かりやすく説明してくれていたのがリラックスすることができました。最初の日にはプレイスメントテストとオリエンテーションがあり、学校内を案内してもらったり証明書のための写真を撮影したりもしました。プレイスメントテストは 4 技能で、文法とリーディングは選択問題、ライティングは与えられたテーマについての作文、スピーキングは先生と 1 対 1 で提示された絵について説明するテストだったと思います。結果によってクラスが分けられますが、再受験もできます。

④ 語学研修機関

a.施設・環境・スタッフ

教室もカフェテリアもお手洗いなどもとてもきれいでした。図書館も自由に使うことができ、分からないことはスタッフの方に聞けばすぐに教えてくれます。体育館にあるジムでトレーニングをしている人もいました。学校内で出会う人たちのなかには PIA の生徒がいることを知ってくれている方も多かったので、なかなかうまく話せなかったり聞き取れなかったりしても丁寧に対応してくれる人が多かったです。学校の創立記念の週にはチュロスやアイスクリームのキッチンカーが来て食べ放題だったり、アフリカ系の国のお祝いをする週があったり、ハロウィンのパーティーがあったり、カフェテリアの料理教室があったりと授業以外の楽しみもたくさんありました。先生やスタッフの方もフレンドリーな方ばかりで、すごくいい環境で学習させてもらえていたと思います。

b.授業内容、課題、試験

レベル 3（ライティング）と 4（その他）の授業を受けていましたが、新しいことを学ぶというよりは、今まで習ったことを英語で復習しているような印象でした。授業形式は講義形式やペアワークが多い形式やグループワークが多い形式など先生によって違いましたが、どの授業も人数が少なく（最少 3 人・最大 13 人）質問しやすい雰囲気だったので、分からないことは積極的に聞くようにしていました。課題は日本の授業と同じくらいで、2～3 時間集中すれば終わるくらいだったと思います。授業が一日おきなので、出された課題はなるべくその日のうちに終わらせることを心がけていました。試験は授業で習ったことの復習がメインだったので、授業で習ったことをしっかりと確認して疑問をなくしておけば問題なく解けます。

c.サービ斯拉ーニング・コミュニティサービス（PIA のみ）

ウクライナの方にオンラインで英語を教える活動をしている団体（GSC）と、日系アメリカ人博物館（JAMO）でボランティア活動をさせてもらっていました。GSC はすべての活動がオンラインで、Excel 資料や連絡先リストの作成や調べもの、オンラインミーティングの書記などをしていました。慣れないうちは英語での仕事を対面でのコミュニケーションなしで行うのに苦労しましたが、回数を重ねるうちに楽しめるようになりました。JAMO では日本語の資料の英訳や英語の展示の日本語訳、企画展の準備などの仕事をさせてもらっていて、日本人だからこそ出来る仕事が多かったのでやりがいを感じました。ボランティア活動の期間は学校へ行く回数が減り（週に 1 回程度進捗報告のようなミーティングがあるのみ）、課題として自分の活動についてのレポートを書いて毎週日曜日に提出していました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

授業外で英会話を練習するためのカンバセーションパートナーという制度がありました。

PIA のスタッフさんが現地のボランティアの方 1 人と学生 1 人をマッチングさせてくれて週に 1 回程度会ってお茶をして話をしたりするもので、私のパートナーの方は多忙な方だったので普段はオンラインで留学のことや日本の歴史、教育制度について、また、英語の勉強方法などについて話をしていました。とても勉強熱心な方で、いい刺激を受けたと思います。仲良くなるにつれてお互い直接会いたくなり、帰国するまでに 3 回ほど対面で会うことができ、家で食事をしたりもしました。帰国後も毎週時間を合わせて通話をしています。

⑥ 現地での住まいについて

ホストファミリーの家の 2 階にある部屋を使わせてもらっていました。お風呂が 2 つあったのでそのうち 1 つを専用に使わせてもらっていて、洗濯は週に 1 回でホストマザーが家族のものとまとめて洗ってくれていました。猫と犬が 1 匹ずついましたが、アレルギーなどはなかったので特に問題はなかったです。食事は野菜が多めで、お米の好きな家族だったので週に 1 回はお米を食べていました。キッチンも冷蔵庫の中身も自由に使っていいと言われていたので自分でサンドイッチを作って学校へ持っていくこともありましたが、学校のカフェテリアで売っているフライドポテトもとてもおいしかったのでよく食べていました。学校へは歩きとバス合わせて 30 分ほどで、乗り換えの必要もなかったのもとても通いやすかったです。

⑦ 長期休暇の過ごし方

クリスマスとお正月の休暇が合わせて 3 週間程ありました。同志社女子大学から一緒に参加したメンバーで NY 旅行へ行ったり、近所の人が出かけている間に家にあがらせてもらって犬と遊んだり、PIA の友達と一緒にシアトルにある Museum of Flight を訪れたりしました。NY 旅行では好きなマンガの聖地巡礼をしたり、ブロードウェイのミュージカルを観たり、自由の女神像を見に行ったりしました。どの瞬間もとても楽しくて、一生の思い出になりました。PIA のクラスメイトのなかではカリフォルニア方面へ旅行に行く人が多かったです。クリスマスにはホストファミリーと一緒に教会へも行きました。アメリカのお正月休みは短いので、1 月 2 日くらいからはサービスマーケティングのボランティア先とのミーティングがあり、休暇の最後の方はボランティア活動に向けての準備をしていました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

PIA のクラスメイト達との活動がとても楽しかったです。PIA のアクティビティでシアトルへの一泊二日の旅行やアウトレットでのショッピング、NBA 観戦などがあり、スタッフの方が運転する車に乗って皆でわいわいはしゃぎながら出かけたことが印象に残っています。プログラム中に誕生日を迎えたクラスメイトの家に行ってお祝いをしたり、誰かのホー

ムステイ先に集まってたこ焼きパーティーやカレーパーティーをしたり、放課後にハンバーガーを食べに行ったりもしました。最も思い出に残っているのは長期休暇中にシアトルにある Museum of Flight（航空博物館）を訪れたことです。シアトル旅行の際に行きたいと言っていたのですが時間の関係で行くことが出来ず、諦めていましたが運良く長期休暇中に行くことが出来ました。アメリカ国内で見てもかなり大きな航空博物館で、航空機の歴史を学ぶことができたり、今はもう使われていない旅客機の中に入ったりすることができました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

うまく会話を繋げられないことや、空気を読みすぎたり変に遠慮してしまったりして声をかけたいのにかけられないことなどがつらいと感じました。英語のスピーキング能力や語彙力の問題ではなく、自分自身のコミュニケーション能力の問題だと思います。英語圏の人たちは日本の人たちよりも表情やリアクションの変化が分かりやすいですし、周りの日本人のクラスメイトたちも元から仲のいい人はいなかったもので、新しい人間関係を築いていくなかで自分の行動や発言が人からどう思われるのか、相手の発言にどういった心理が隠れているのかを気にしすぎて疲れてしまっていたと思います。周りの人たちもコミュニケーション能力の高い人が多かったので、比べてしまったこともありましたが、自分が気にしたところで相手の感情や態度を変えることはできないと割り切るようにしたら少し楽になりました。留学先でこんなにも日本でもありそうなことに苦労するとは思っていなかったのが驚きました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

とにかく自分の意見を主張しなければいけないと感じました。人に何かを質問すれば必ずじゃああなたはどう考えているの？と質問が返ってくるし、誰かと同じ意見だからと言って黙っているのではなく、自分はこう考えていて、この点でこの人と共通する部分があるからこの意見なのだとはっきり言わないと意見のない人だとみなされてしまいます。日本にいるときよりも人の考えや発言に興味を持つようになりましたし、自分自身も私なりの考え方をしようと思うようになりました。また、ホストマザーが残業や休日の仕事をほとんどしていないことに驚きました。私の両親は休日もパソコンに向かっていることが多いので、働く時間と休みの時間がきっちり分かれていて休日は趣味の編み物やハイキングなどに熱中して家族の時間を大切にしているのが良いなと思っていました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは持っていきました。授業でプレゼンをすることがあったのでパワーポイントを作ったり、オンラインで授業やミーティングに参加したりするのにも役立ちました。また、

バスの手すりや座席、飲食店の机など日本だとあまり汚れていないところも汚れていたりすることがあるので、小さいアルコールスプレーやウェットティッシュを携帯しておく方が良いと思います。私は荷物のほとんどが服で小物は現地でそろえようと思っていましたが、自分に合って値段も安いものを選ぶのが難しいと感じたのでシャンプーやリンス・生理用品・クリームなどの消耗品でこだわりがある人は半年分をきっちり持って行った方が良いと思います。（帰国するときに荷物が減ってお土産なども詰めやすくなります）ホストファミリーへのお土産では日本風の絵が描かれている醤油皿のセットを渡しました。猫の絵だったので、小さいお皿にかわいい絵が描いてあるととても喜んでもらえました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学後の TOEIC の点数に関しては努力不足でそこまで結果を出すことができませんでしたが、英語を躊躇なく話すことができるようになりました。日本で英語の授業を受けていても、日本人の学生同士だとどうしても日本語で話をしてしまったり、どのように英語でリアクションをとればいいのか分からなかったりということがありましたが、英語での日常会話を鍛えられて英語で話す際のノリのようなものが以前より掴めて、自信を持って話すことができていると思います。帰国後のバイト中に外国人のお客様がいらっしゃったときに自然に英語が出てきたことで成果を実感しました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学を通して様々な人や文化と出会い、視野が大きく広がったと感じています。その一方で、何か大きな目標(自分が惜しみなく努力して辿り着くことができ、その努力を楽しいと感じられるもの)を考えて設定しておけばよかったと後悔している部分もあります。留学はお金もかかるし卒業後にはなかなか経験できないことのひとつだと思います。一瞬一瞬をちゃんと価値あるものにすることができるよう、TOEIC など学習的な目標とは別に自分なりの目標を持って挑戦してみたいです。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

現在就職活動中です。以前は英語をメインに使う仕事がしたいと思っていましたが、今は英語以外のスキルを身に付けられるような仕事がしたいと考えています。英語学習の目標は卒業までに TOEIC の満点を取ることで、卒業後は通訳の資格にも挑戦したいと思っています。また、中国語やベトナム語など英語以外の言語の勉強も始めたいと思います。世界史や国際情勢についても学び、いろいろな国の世界遺産を巡ることが夢です。

V. 写真



ニューヨーク旅行の写真です。好きだったマンガの聖地巡礼ができて幸せでした。



シアトルの航空博物館です。数えられないほどの飛行機が展示されていて圧巻でした。

K. S. （英語英文学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は将来、英語を使いながら仕事をしたいと考えていたので、語学力の向上を目的に留学を決意しました。留学は1年次生の頃から挑戦したいと考えており、当時は協定大学留学も視野に入れてはいましたが、就活を3年次生からしっかりとしたいと思ったので、 Semester 一語学留学を選びました。

② 留学決定から出発までの準備期間

準備期間では、用意しないといけないものがたくさんありました。ビザやパスポート、ワクチン接種証明、クレジットカード、飛行機の予約など中には審査に時間がかかるものもありました。

③ 現地到着後

ポートランドに到着すると、私のホストマザーは仕事で来られなかったため、他の留学生のホストマザーが家まで送ってくれました。家に到着後は部屋の案内や自己紹介を済ませました。ホストマザーが疲れているだろうから仮眠をとったら？と提案してくれたのでそのまま夕飯前まで寝ました。

④ 語学研修機関

a. 施設・環境・スタッフ

学校は小さかったですが、カフェや食堂、ジム、図書館などがありました。先生方はとても親切でフレンドリーな方ばかりでした。留学生一人ひとりのことを気にかけてくださったので、とても良い関係を築けました。

また交通の便に関しては、バス停が学校の目の前にあるため、とても便利でした。

b. 授業内容、課題、試験

Reading, Grammar, Writing, Speaking & Listening の4つの科目に分かれていました。どれもレベル別に行なわれ、かつ少人数であるため、わからないことがあればすぐに質問できる環境でした。課題は毎日しっかりと出るので、家に帰ってから夕飯までの間に終わらせるというのがルーティーンになっていました。

試験は中間試験と期末試験がありました。どちらも普段の予習復習をしっかりこなしてい

ると、問題なくクリアできると思います。

c. サービスラーニング・コミュニティーサービス

前半のサービスラーニングでは、アメリカでのマナーやタブークエスション、カバーレターの書き方などを学びました。後半の 2 ヶ月間は実際に自分で選んだ 2 つの施設に行き、ボランティア活動をしました。

1 つ目は、ホームレスの人々を支援する施設にしました。そこでは主に食事の提供と、寄付された服のサイズ分けを行いました。ボランティアがホームレスの方へ席まで食事を届けるのですが、その際 “God bless you” や、“You made my day” などと温かい言葉をたくさんかけてもらい、心が暖かくなりました。

2 つ目はインターナショナルスクールを選びました。そこでは、日本語を教えました。4 歳児クラスを担当していたので、ほとんどの子供は日本語を勉強中で、コミュニケーションをとることが難しい状況でした。そのため、簡単な日本語を使ったり、時には英語を混ぜて話したりしました。ちょうど発表会の時期だったので、子供達と一緒にトトロの歌を練習したことが印象深いです。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

同上。

⑥ 現地での住まいについて

私のホームステイ先にはホストマザー 1 人だけでした。洗濯や掃除のルールはなく、好きな時にやっていいとのことでも自由に過ごせました。食事は、夕飯は一緒に作って、その余りを次の日の昼食にしていました。朝食は自分でパンやベーグルを食べたり、サンドウィッチを作ったりしていました。また、ホストマザーはベジタリアンだったので、野菜中心の健康的な食事でした。

通学に関しては、学校までバスで 15 分ほどでした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

12 月に 1 週間、ニューヨークに旅行に行きました。自由の女神を見に行ったり、タイムズスクエアでショッピングしたり、ブロードウェイのミュージカルを観に行きました。ポートランドよりもニューヨークの方が、比べ物にならない程忙しい街でしたし、街の人のファッションもオシャレでした。

II.留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

最も思い出に残っていることは、インターナショナルスクールでのボランティアです。最初は子供達とどう接したらいいのかわからず悩みましたが、外で遊ぶ時間に一緒に鬼ごっこや、かくれんぼをしたことで一気に距離が縮まりました。前に述べたように、発表会の時期だったので、本番までたくさんダンスの練習をし、当日は大成功でした。ボランティア最終の日には、子供達からアルバムとたくさんのハグをもらいました。「大好きな先生なのに会えなくなるのが寂しい」と言われた時は泣きそうになりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

私自身楽観的な性格なのもありますが、あまり辛いと思ったことはなかったです。しかし、留学開始当初はホームシックにはならなかったのですが、年末年始は軽いホームシックになりました。アメリカでは日本とは違ってお節料理やお雑煮などの特別な料理を食べないし、あっさりと新年を迎えたことがとても悲しかったのを覚えています。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

アメリカの交通機関は日本のものに比べ、時間にとってもルーズでした。15 分遅れの時もあれば逆に 2 分早く行ってしまったり、バス停の手前で降車専用で切り替えたりととても自由でした。

III.留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

- ・パソコン（課題をするのに必要）
- ・トリートメント（リンスインシャンプーがほとんどで、髪がバサバサになるため）
- ・自分に合ったスキンケア製品と薬
- ・室内用スリッパ
- ・折り畳み傘（ポートランドは雨が多いため）

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

私は特にリスニング力が伸びました。私のホストマザーはおしゃべりが好きな方で毎日 10 時くらいまで一緒に話していたのですが、最初の 1、2 ヶ月はスピードが早過ぎて頭の中が混乱していました。しかし、3 ヶ月目からいちいち英語を日本語に訳して理解するのではなく、英語を英語のまま理解できるようになっていました。日常会話は学校で勉強する英語とは全く違うものなので、いい経験になったと思います。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

少しでも興味があるなら、留学することをお勧めします。私自身、とても素晴らしい経験をしましたし、こんなに長い間海外で異文化に触れられる機会は大学生の間だけだと思います。優しくて明るいホストマザーに会えたし、語学力も向上したので本当にいい思い出になりました。

IV.将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来は CA になりたいと小さい頃から思っているので、その夢を叶えるために留学で向上した語学力を維持したいと思っています。また、留学先で出会った人たちと今後も交流していきたいです。

V.写真



クリスマスシーズンの家の様子です。12 月に入ると毎日 1 つずつプレゼントが増えていきました、



ブロードウェイのミュージカル、アラジンを観た時の写真です。ニューヨークで一番思い出に残っています。

M. Y. （日本語日本文学科・2 年次）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私が大学生活で一度は留学をしたいと考えたきっかけは、高校時代の修学旅行でカナダに一週間ほど訪れたことです。それまでも英語の学習に興味はありましたが、海外に行きたいと強く思うことはありませんでした。しかしカナダを訪れ、ホストファミリーと過ごす中で文化の違い、特に人々のフレンドリーさをひしひしと感じました。初めての経験で緊張している私にたくさん話しかけてくれました。かといっても気を使っているような堅苦しさはない、そんな雰囲気がとても好きになりました。楽しくて親切で大好きなこの人たちとずっと話せるような英語力をつけて、また海外に挑戦したいと思わせてくれた、そんな素敵な経験でした。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学が正式に決定してからは、ビザの申請に取り掛かりました。時間がかかると聞いていたので早めに準備しましたが、その通りでした。書類を埋め、面接の日時を予約して最終申請になるため、できるだけ早く取り掛かるのが大切だと感じました。英語の学習としては、特に特別なことはしていませんでした。1つあえて挙げるとすると、私は読み書きのスキルを高めたいというよりは、留学を通して人とコミュニケーションをとることが目標であり一番楽しみにしていたことだったため、ネイティブの教授と少しでも話そうとしてみたり、オンライン英会話を毎日 30 分ずつ受講したりしてスピーキングの練習をしていました。

③ 現地到着後

空港に語学学校の方が迎えに来てくれました。私のホストファミリーは仕事で来ていませんでしたが、迎えに来ている方もいました。私はホストマザーが仕事を終えるまで時間があつたので、語学学校でボランティアをしている現地の大学生が車で街と一緒に散策してくれました。まだ英語のままならない私にも明るく話しかけてくれて、新しい街にワクワクしたことを覚えています。ホストファミリーにその後対面し、数日後にオリエンテーションがありました。もちろん英語でのオリエンテーションで、学生登録の方法や学校の説明などを聞き取るのは当時の私には難しく、あたふたしてしまったところもありましたが、友達や先生が分からなければ丁寧に説明してくれたので何とかやり切りました。

④ 語学研修機関

Pacific International Academy (PIA) は小さな大学の中にある語学学校で、すぐ後ろには

自然にあふれた山と公園のある、とても過ごしやすい環境にあります。大学自体小規模な為、迷ったり部屋が分からなかったりすることもありありません。留学している間ほぼすべてのことにおいてサポートしてくれるディレクターの Rahi は本当に優しく、面白くて、留学中に会った人の中でも 1 番尊敬している人です。語学学校のことはもちろん、学校外でも困ったことがあれば何でも相談に乗ってくれて、解決してくれます。ほかの先生方もとてもフレンドリーで、たくさん話してくださります。4 技能の授業がありましたが、最初のテストでクラスがレベル別に分けられるので自分のレベルにあった授業が受けられます。私はどのクラスも自分のレベルにちょうど合っていると感じられたのでそのままでしたが、合っていないと感じれば相談し、変えることも可能です。課題、試験については授業により差はありますが、しっかりと勉強する意思があればこなせる量です。私はサービslラーニングを受講していたので毎週金曜日の授業でボランティア活動への参加に向けた準備としてアメリカの文化などを学び、最終タームには現地の高校の日本語の授業でのアシスタントとノンプロフィットオーガニゼーションでのボランティアを行いました。特に日本語教育に興味があった私は、高校での経験はかけがえのないものになりました。

⑤ 課外活動、ボランティア活動について

授業外で申請できるカンバセーションパートナーのプログラムに参加していました。奥さんがカンバセーションパートナーでしたが、いつも一緒に来てくれる旦那さんも交えて、週に 1 回ほどカフェでお喋りをしました。時には一緒に美術館に行き、アートについて教えてもらいながら沢山英語でコミュニケーションをとる練習ができました。留学している間ずっと続けていましたが、初めのほうの会話を思い返してみると英語力がかなり上がったと感じることができたのでぜひ活用するべきだと思います。

⑥ 現地での住まいについて

私は 1 人目のホストが忙しく、たくさん会話がしたかった私にとって少し希望に合わない環境だったため、サポーターの方に相談してホストを移動させてもらいました。お別れの時にプレゼントをしてくれたのですが、英語力向上のためには必要な決断だったと思います。2 人目はマザー 1 人の家で、その時は働いていなかった所以毎日学校から帰るとたくさんその日のことやたくさんしたことについて話しました。食事はとてもおいしく、朝食と昼食は必要な材料をしっかりと用意してくれるので自分で好きなものを食べていました。洗濯やシャワーに特に制限はなく、本当に快適に過ごせました。学校からはバスで 40 分ほどでした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇が 12 月にあったので NY に旅行をし、その後カリフォルニアの親戚の家を訪れてクリスマスと新年を過ごしました。NY の旅行は飛行機やホテルを自分たちで手配しなければいけなかったのが不安でしたが、案外できるということに気づけましたし、自信が付き

ました。NY に旅行した時にはクリスマスシーズン真最中だったので、街中がテーマパークのように賑わい、日本では経験できないようなクリスマスを感じることが出来ました。親戚を訪問した際には一緒にスキーをしたり、クリスマスのプレゼント開封をしたり、本当に楽しかったです。英語しか話せない親戚ともしっかりと連絡を取り合い、コミュニケーションが出来たので英語力の向上を感じることもできました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

私はとにかく英語でたくさんの人と出会い、話し、仲を深めることが出来たことがとても楽しかったです。最初はなかなかうまく話せないときもありましたが、恥ずかしがらずに話してみる事でだんだん自分の考えが伝わるようになり、会話を楽しめるようになってからは本当に新しい人と出会うことが楽しみでした。特に高校でボランティアをしていた時にたくさんの高校生が話しかけに来てくれたり、仲良くなれば楽しい授業に連れて行ってくれたり、私がなんだか高校生活を送っているような感覚で、最高の思い出になりました。最後にたくさんのプレゼントと感謝の言葉を受け取った時には何とも言えない幸せな気持ちでした。

② 留学中で辛かったこと、最も苦労したこと

全体的に本当に楽しかったのですが、治安のことについてはいつも心配が頭を離れず、怖かったことを覚えています。昼間でもホームレスの人が道にいたりすることもあり、人気のないところではすぐに助けを呼べません。また夕方 6 時や 7 時以降はあまり 1 人で出歩かない方がいいと言われることが多く、用事があっても早く帰るようにしていました。遅くなる時には必ず迎えに来てもらって、難しい時はタクシーを使っていました。特にダウンタウンは治安が悪く、後半は特に用事がない限り出向くことはありませんでした。人によって感じ方は様々で、平気で夜遅くに歩いている友達もいましたが、周囲には気を付ける必要があると思います。

③ 文化、習慣の違いなどで驚いたこと

やはり何事もはっきりと伝える文化はたくさんの場面で感じました。例えば夕食でもう満腹の時にはただそう伝えれば何の失礼にもなりません。また買ってほしい食料ややってほしいことなど、ホストマザーに言いすぎるのは図々しいと感じるかもしれませんが、向こう側もできないこと、やりたくなければはっきりと言ってくれるのでまずは聞いてみる事が大事です。そして断られたからと言って傷つく必要ありません。いろいろと気遣いをしなくていいので、言ってしまうと案外気楽でした。しかしながら、たくさんの文化が混ざってい

るアメリカなので人種や性別、宗教などのトピックについては口にするのには気を付けなければなりません。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは授業と課題に使うので必須です。役に立ったのは室内用のスリッパです。靴を脱ぐ習慣がないので家ではスリッパをいつも履いていました。また、日本のお土産を多めに持って行っておくと、向こうで出会って仲良くなった人に、お別れの時にプレゼントしたりできて良いです。また、向こうではスマホがないと電車やバスが分からないのでもしものために持ち運び充電はいつも持ち歩いておくと安心です。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

やはりスピーキングとリスニング力は格段に上がりました。大体のことは伝えられて、スムーズに会話ができるようになり、英語を使って友達を作ることが難くできるようになりました。それによってコミュニケーションをとれる人の数が増え、帰国後も毎日が数倍も楽しく感じます。また、海外の人たちのフレンドリーさや、人生を楽しんでいる姿を見て、私自身も自分が楽しめる事にはとりあえず挑戦して、誰にでも気軽に話しかけて視野を広げることが出来るようになりました。心の持ちようがかなり変わり、私にとって本当にかげがえのない経験でした。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学を少しでもしたいと思っているのなら、是非してください！日本とは 180 度違う環境と人々のなかで、新しい自分が見つけれられるかもしれません。もちろん語学学校には他の日本人の人もいっぱいいますが、本当に英語を上達させて成果を出したいと思うのなら、恥ずかしがらずに自分を英語だけの環境に置いてください。他の国からの友達やホストファミリーとたくさんたくさん話すことで、初めは辛い時期もあるかもしれませんが、帰国後に成果を感じることが出来ます。今しかできない経験、出会いを大切に、海外での毎日を楽しむことが出来れば、留学生活はとても実りのあるものになると思います！

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

私は特に自分の性格が海外で過ごすことにより向いていると感じたので、1 年以上海外で住んでみたいと感じています。ワーキングホリデービザなど、たくさんの選択肢の中からじっくり選んでいこうと思います。働くことに関してはアメリカで日本語のクラスのアシスタ

ントをしたときに、とても楽しかったこともあり、日本語教師として働く道があればいいな
と思います。そのためにも現在取得中の日本語教師養成講座をしっかりと学び、英語力の維
持とさらなる向上に努めています。

V. 写真



雨のなかでハイキングをした時の写真です。日本にいと雨を嫌いがちです。
ポートランドはたくさん雨が降るので、雨の日独特の雰囲気や空気を楽しむよ
うになりました。その後に食べたメキシコ料理とタピオカは格別でした。



ホストマザーの写真です。私の誕生日に手作りのケーキを作ってくれて、夕食も大好きな照り焼きチキンを作ってくれました。かわいい猫のスリッパをプレゼントしてくれたのも嬉しかったです。本当に大好きなホストマザーです。